

おたふくかぜ

明けましておめでとうございます。本年も当コーナーをよろしくお願い致します。昨年 10 月予防接種法の改定がありロタウイルスワクチンも定期接種化（無料化）され、小児を対象とした主だったワクチンで定期接種から外れているのはおたふくかぜのみとなりました。今回はおたふくかぜのお話し。

おたふくかぜ、流行性耳下腺炎といいます。集団保育の始まる 3~6 才ぐらいでよく罹ります。ムンプスウイルスによる感染症で唾液などの飛沫から感染し、2~3 週間の潜伏期間を経て発症、耳下腺（耳の周囲の唾液を作る場所）を中心に腫れて痛みになります。多くの場合発熱も伴います。1 週間程度の経過で解熱、腫れもひいて、外出可能となります。

怖いのは合併症です。髄膜炎が 10 人に 1 人、難聴が 1000~2000 人に 1 人、思春期以降にかかると睾丸炎が 4 人に 1 人、卵巣炎が 20 人に 1 人、頻度は少ないですが脳炎や膵炎の合併症もあります。睾丸炎、卵巣炎はその後の不妊の原因になりますし、難聴はほとんど片側性ですが、発症すればずっと耳は聞こえないままです。不妊にしても難聴にしてもおたふくかぜの合併症はその後の生活に与える影響が甚大です。

おたふくかぜに対して根本的な治療はありません。罹ってしまったら痛みを和らげたりする治療（対症療法）のみで合併症が発症しないことを祈って安静にして待つのみです。

対抗できる唯一の手段はワクチンです。何歳でも接種出来ますが、通常であれば1才、年長さん程度の間隔で2回接種が基本となります。1回接種で7割、2回接種で9割強の予防効果(10人いたら9人以上おたふくに罹らない)が期待できます。合併症を防ぐため、流行を起こさせないため、予防接種を御願います。